

【マラウイ】

# HIV / エイズ予防の希望の光！

青年海外協力隊員が歌うHIV / エイズの予防啓発ソングがマラウイで大ヒット中だ。

# Close Up!

ジャイカのあしあと



ミュージックビデオは、JICAホームページ (<http://www.jica.go.jp>) で公開中!

マラウイの音楽ヒットチャートで堂々の第1位を獲得した「デイマクコンダ（＝愛してる）」。今や、マラウイで知らない国民はいないというほど人気のこの歌を、ちよんまげ風の頭に基平をまとった衣装で歌うのは、元青年海外協力隊の山田耕平さんだ。

1時間に10人、年間約8万人。これは、マラウイのHIV / エイズによる犠牲者の数。エイズは日本でも深刻だが、最貧国の一つであるマラウイでは高価な治療薬が人々のもとに届きにくく、HIV感染は生死にかかわる問題だ。

活動地域のカロンガ州で山田さんが目にしたのも、人々が毎日のようにHIV / エイズで亡くなっていく現実だった。多くの地域にカウンセリングや検査が受けられる施設（VCT）はあるものの、人々の予防への意識は低く、特に若いカップル間での感染が年々拡大している。若者と話し、「自分が感染しているかどうか知るのが怖い」という彼らの本音を知った山田さんは、「愛するパートナーを守るために勇気を持ってVCTへ行こう」というトレンドをつくれ

ないか」と考える。そこで思い付いたのが、予防の重要性を訴えるミュージックビデオ作りだった。

作詞は山田さんが、作曲と歌詞の現地語（チェワ語）訳は、友人でマラウイの人気歌手ムラカ・マリロさんが担当。ビデオ制作では現地NGOや大学、また現地で活動中だった新田秀幸隊員と石田純子隊員の協力も得た。そしてテレビ・ラジオ局へのプロモーション活動を精力的に続けた結果、歌は多くの地域で毎日繰り返し流され、瞬く間にヒットした。

ミュージックビデオの著作権使用料は、リプロダクティブ・ヘルスに取り組む現地NGOに寄付される。NGOはVCTの訪問者にCDを配布するなどして、歌とHIV / エイズ予防をシンクロナイズした活動を展開していく予定だ。

マラウイでは音楽が一番のエンターテインメント。歌の勢いに乗せて、人々の意識の変化にも拍車がかかると期待されている。



2003年12月に村落開発普及員としてカロンガ州農業局に派遣され、06年3月帰国。マラウイでは特に予防啓発などを行うエイズ対策隊員も活動している。